

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	草津市立発達支援センター 湖の子園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日 ～ 2026年 1月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39 (回答者数)	30
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日 ～ 2026年 1月 9日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22 (回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	給食・午睡の時間があり、生活リズムの基盤や1日の生活の流れを家庭と一緒に作りながら療育を進められる。	家庭での様子や生活面に関する保護者の悩みを聞き取りながら、給食の食形態や午睡の時間を相談したり必要に応じて提案したりしている。	こどもと保護者のニーズを聞き、流れを検討しながら療育を進めていく。また、必要に応じて懇談や家庭訪問の機会を新たに設定する。
2	専門相談(PT、ST、OT、医療、心理の相談)を受けることができ、個人的に相談したり療育センターやびわこ学園など専門機関につなぐことができる。	全員年度内に2回以上クラス担任と個別懇談の機会を作っている。また事前に保護者の質問や悩みを聞き取り、STやOT、PTや医療、心理などの専門スタッフによる個別の懇談など、保護者のニーズに合わせて機会を作っている。	専門相談の前にはアンケート用紙を配布し、保護者のニーズをより詳細に聞き取り懇談内容に取り入れる。事後にも感想やもう少し聞きたかったことなどを聞きとり、保護者支援と共にこども理解を深めていく。
3	関係機関と連携しながら、地域全体の保育・療育の質の向上へつなげる事業を行い、切れ目ない支援を行っている。	地域の事業所との連絡会を複数回行い、研修や情報交換の機会を作っている。また市内の保育所・園やこども園、幼稚園の加配担当保育者を中心とした研修・交流会をの機会を作り、在籍児が就園する際は対象園に自園へ観察に来てもらったり対面で引き継ぎを行ったりしている。	情報交換できる機会が欲しいという声が上がっているため、引き続き共通のテーマを選定しながら企画・運営していく。また、保護者と就園先の職員、双方の相談内容を把握し、連携・調整を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援として、保護者向けのプログラムを複数設定したり親子療育の機会を作ったりしているが、保護者のニーズが多様化しプログラムの内容の企画・整理や職員間の共有(アナウンス方法の周知)が間に合っていない。	時代と共に保護者のニーズが変化しているが、ニーズの把握や新しい枠組みの整理はでききれていない。	保護者のニーズについて把握方法を検討し、保護者への伝え方等、職員間で共有していく。
2	保育所・園やこども園、幼稚園など地域の中で他のこどもと活動を共にする場がない。	公立の保育所やこども園を中心に交流を打診しているが、通所児童が低年齢化していることや、相手側の対象クラスの受け入れ体制が整っていないことを理由に実現していない。	参加しやすいクラス等から保護者の意向や個人の状況に合わせて人数を絞って検討する。
3			